

人権週間 ●12月4日～12月10日

幸せはみんなの願いです。

私たちは、この世に生を受け、人間として尊ばれ、愛情と信頼に満ちた温かい世の中で、幸せに暮らしたいと願っています。お互いが幸せに生きたいと思う気持ちは、人間としての自然の願いです。

このような人間として当然の願いを憲法では、侵すことのできない権利、いわゆる基本的人権としてすべての人々に保障されています。

ところが現実の社会では、いろいろな面でこの

基本的人権

がいちじる

しく

侵害

されて

いる人々が

います。

なかでも

同和地区の

人たちは、

同じ日本国民

民でありなが

ら、ただ同和

地区に生まれ

たというだけ

で、いろいろな

面で差別を受け、

基本的人権が完全

に保障されてい

ないという現実

があります。



同和問題とは…

同和問題というのは、日本社会の歴史的な流れの中で、封建時代の身分制度がもとになって生まれた差別の問題です。具体的には一部の人がちが経済的、社会的、文化的に低い状態におかれ、教育の機会が不十分であったり、また、そのために就職の機会がとざされ、あるいは交際や結婚など、日常の社会生活において差別され、だれにでも保障されているはずの基本的人権が、今日なお十分に保障されていないという社会問題です。

私たちは、だれであろうと生まれてくるときに、家や親や場所などを選ぶことができず、ところが同和地区に生まれ育ったというだけで差別されている人々がいます。こうした本人の責任や努力などとは関係のないことがらで差別することは、その人の持つ基本的人権を全くふみにじってしまうことになるわけです。

小さな力が大きな課題を解決します。

同和問題といえ、同和地区の人々の問題とてか、自分には関係ないことだと考えるなど、まだまだ自分の問題として考えていない面があります。また、自分は差別していないと思っても無意識のうちに他人を傷つけていることもあります。

私たちが同和問題をタテマエや口先だけでとらえ、うわべだけ理解していると、結婚など自分自身や家族親類にかかわる身近な問題が生じたとき、ホンネがとび出すことになり

ます。私たちは、同和問題を自分のものとして真剣に受け止め、ホンネを変えていくことから始めなければなりません。

私たちが一人ひとりの力は小さなものですが、その努力が、少しずつ周りの人々の考えを変えていくことも事実です。

私たちが一人ひとりが同和問題を正しく理解し、認識していくことが、同和問題を早く解決することになるのです。

研修会・講演会のご案内

- 地域行政指導者等同和問題研修会**
- (1)とき・ところ 十一月十六日 午前十時 八代市 八代平安閣
 - (2)講師 高千穂正史 (元厳寺住職)
- 同和問題講演会**
- (1)とき 十二月四日 午後一時
 - (2)ところ 県庁地下大会議室
 - (3)講師 川向秀武 (福岡教育大学教授)

第二回全国都市緑化フェア開催される

○第二回全国都市緑化フェアが十月五日から十一月十日まで、日比谷公園、代々木公園などを会場に開催された。

全国各地のみどりのパネル展では、熊本からも斬新なパネルを出展し、注目を集めた。

また、十月十九日には、県関係者により肥後つばきの苗千本を入場者に配布し、熊本のみどりを売り込んだ。人気回復をねらってからし蓮根の

試食会開く

○県選出国会議員秘書団による「からし蓮根」の試食会が、去る八月十日、東京永田町の衆議院第二議員会館食堂で行われた。



東京だより

肥後つばきでくまもとの緑をアピール。

これは、例の食中毒で関東地区においても本県特産からし蓮根の人气が落ちたため、人気回復をねらって行われたものである。

九月二十七日、厚生省の調査も最終報告が発表され、関東地区でも徐々に人気回復の方向に向かっている。



日本一の石段づくり

ポトと百万円の寄付 ○県では、日本一づくり運動を展開しているが、その見本というべきものが、下益城郡中央町の三千段の石段づくり。

完成すれば、もちろん日本一となるもので、このほど、話を聞きつけた竹本照子さん(東京赤坂で料亭経営)が役立ててください。県東京事務所市川町長に贈呈された。

「関西熊本県人会連絡協議会」設立総会開く

○十一月六日、関西地区にある各地域の熊本県人会や同窓会(四十五団体)の代表者百十名が集まって、「関西熊本県人会連絡協議会(略称・関西熊本県人会)」の設立総会を大阪市で開いた。

各県人会、同窓会の相互の交流を深め、併せて郷土との連携を密にして本県の発展に寄与することを目的としたこの会の結成は、数年前からの懸案となっていたもの。

総会では、会長に永田日立造船代表取締役を選出し、今後、お互いに協力して会を盛り上げていくことを申し合わせた。

関西で好評を博している球磨地方の食肉

○九月十三日、大阪府の松原食肉地方卸売市場で、第十二回球磨都市枝肉共助会が開かれた。今回は黒毛和種三十五頭、乳用種七頭、あか毛和種四頭が出品された。黒毛和種の部では、上物率四十六%



県から年間約四千頭の肉牛が関西地区に出荷されているが、最近、球磨・人吉地方産の肉質が非常に向上してきており、関西の食肉業者の間に好評を博している。

全国身障者スポーツ大会で県選手団が活躍

○第二十回全国身障者スポーツ大会が、ツ大会が、十月二十七日、二十八日の両日、奈良市で開催された。

本県からは、総勢二十三名の選手団が参加した。開会式入場行進に先立ち、県議会厚生常任委員の方々の激励を受けた選手たちは、フィールド、トラック、プールに活躍し、好成績を納めた。

健康メモ

塩分の取り過ぎにご注意!

わが国の国民死因は、最近まで脳卒中が第一位を占めており、欧米諸国で心疾患が第一位である国が多いのと対照的です。これは、米を中心とした含炭素の大量の食塩摂取量の過剰が一因であるといわれています。

食塩は、身体内部でナトリウムイオンとして作用し、体内の浸透圧を調節するため水分を増加させます。塩分を取り過ぎた場合、この余分の塩分、水分を排出する腎臓の働きを増すため、血圧が高められます。この状態が続くと動脈の硬化と併せて、高血圧症となってしまいます。さて、一日どの位の食塩が必要なのかという、学問的には、一グラム程度でよいとされています。適当な摂取量は、はつきりと定め難いものですが、日本人の場合、一日一〇グラム以下が望ましいとされています。血圧が高い人は一日六〜八グラム以下が適当です。

減塩対策としては、毎日の食事で、うす味を心がけ、その味に慣れることが大切です。日本人の食生活に欠かせないみそ汁(平均的なもので一杯に一・五グラム含む)の塩分も相当の量になります。一度、お宅のみそ汁の塩分も調べてはいかがですか。果ては塩分濃度計を各保健所に備え、皆さんのご利用をお待ちしています。



(首席医療審議員 本郷尚史)